

新型
コナ

就活生とウェブで面
談する西日本コンサル
タントの総務担当
者(右)＝大分市田
中町、撮影・首藤洋平

ウェブ就活 歓迎と不安

学生「交通費かからない」「自分らしさが伝わるか」



新型コロナウイルスの影響で、来春卒業予定の大学生らは異例の就職活動に挑んでいる。大分県も対面での会社説明会は軒並み中止・延期となり、社によってはウェブで実施。パソコンやタブレット越しの面接で会社に行くことなく内定を得た学生もいる。交通費をかけず遠くの企業を体験できる点が歓迎される一方、「自分らしさが伝わるか」「本当に自分に合った会社なのか」と心配いもある。

他人の目気にせず
「こんにちは。こちらの声は聞こえていますか。本日はようしくお願ひします」
今月3日、建設・設計関連の西日本コンサルタント(大分市田中町)の会議室。総務課の小川由紀子係長はノートパソコンの画面越しに学生へ呼び掛けた。

同社は今年、会社説明会を初めてウェブにした。3月に従来通り対面での実施を予定していたが、安全面を考慮して中止。「学生の選抜段階に入るため」と、全国的な流れに合わせ、すぐに開催方式を変更した。

テレビ会議ツールを使い、一対一で対話をする。この日は県外の大学に通う男子学生が参加した。小川さんは約40分間、会社概要や社内の様子、撮影した動画などを紹介。学生が志望する環境部門の社員も加わり、仕事内容を説明した。

「他の学生の目を気にしなくてよいので、本当に聞きたいことを尋ねてくれて」と小川さん。学校生活や趣味など打ち解けやすい話題にも努めて触れ、人柄を把握しようとしている。会話しやすい雰囲気をつくろう。会社側も試行錯誤の連続だ。

県内企業も試行錯誤

「ウェブ面接に抵抗感はなく、移動費がかからないのも助かった」。ただ、他の内定者と会っていないこ

就活情報会社「マイナビ」(東京都)が来春卒業予定の就活生を対象に実施した調査によると、「新型コロナウイルス感染拡大が自身の就職活動に何らかの影響がある」と回答した学生は82・9%。就活のウェブ化については会社説明会はいが、1次面接以降は対面が望ましい」とする割合が49・2%と最も多かった。

別府大食物栄養科学部4年の道下裕太さん(21)は別府市には出身地である鹿児島県内の企業を受験。最終選考まで全てウェブで内定を得た。

「ウェブ面接に抵抗感はなく、移動費がかからないのも助かった」。ただ、他の内定者と会っていないこ

大分大経済学部4年の山田未音さん(21)は「大分市金池南」は「オンライン化で距離的に現地参加が難しかった企業の説明会に出られた」と話す。一方、会社の雰囲気や肌で触れ、会場で出会う他の就活生と情報交換をする大事な面もある。「できれば面接も対面がいい。自分らしさが伝わると思うので」と望んでいる。(磯崎恵)

情報交換の大事さ
就職は人生の大きな転機だけに、さまざまな選択肢を検討し、進路を決めたいところ。

ともあり「仕事についていけるだろうか」と不安にもなるという。

来春卒業予定の大学生の模範日程は3月に会社説明会、6月に面接などの選考活動が続き、正式な内定は10月1日以降となる。前例がなく、企業によって採用活動の進め方は異なる。県内の就活情報系を扱うフロンティア(大分市)によると、約3割の企業が会社説明会などをウェブで実施した。ウェブでの説明会は録画とリアルタイム配信があり、県内は遠隔が多いという。